

記入要領

- ・当該事業によるアウトカム指標の変化を把握
- ・効果が認められる評価項目は を に変更
- ・印の評価項目については定量的評価の結果を記載

様式 1 客観的評価指標による事業採択の前提条件、事業の効果や必要性の確認の状況

事業名	中国横断自動車道（三刀屋木次～松江玉造）
事業主体	西日本高速道路株式会社

<事業採択の前提条件に対応する事後評価項目>

	評価項目	効果の有無	補足事項（場所・データ等）
事業の効率性	交通量の状況（新規事業採択時（再評価時）の予測値との比較 ¹ 、乖離の要因等）	-	平成 15 年度（全線開通時）の平均交通量は 4,400 台/日であり、推計値の平均交通量(2,600 台/日)の約 1.7 倍
	旅行速度向上の状況（新規事業採択時（再評価時）の予測値との比較 ¹ 、乖離の要因等）	-	一般国道 9、54 号利用で 43km/h から高松自動車道利用で 65km/h に 22km/h 向上 (雲南市一般国道314号交差点～松江市一般国道485号交差点) 資料)道路時刻表
	交通事故の低減の状況（新規事業採択時（再評価時）の予測値との比較 ¹ 、乖離の要因等）	-	当該道路及び並行道路（一般国道 9、54 号） 死傷事故件数 81 件/年 から 84 件/年 死傷事故率 39 件/億台 [□] から 35 件/億台 [□] (H10～11 年平均) (H16～17 年平均) 資料)道路交通センサス、事故統合データベース
	事業費・維持管理費の状況（新規事業採択時（再評価時）の予測値との比較 ² 、乖離の要因等）	-	事業費 計画：942 億円 実績：931 億円（-11 億円） 要因：橋梁形式の変更、トンネル対策工の見直し 等
	事業期間短縮（遅延）による社会的便益（損失）（便益増減額と費用増減額を計測）	-	計画時：8 年 3 ヶ月 実績：9 年 3 ヶ月（+1 年） 損失額：91 億円（費用増加額 15 億円、便益減少額 76 億円）
	費用対効果分析の結果（新規事業採択時（再評価時）との比較）	-	B/C= 3.4 (H19 基準年)
事業実施環境	新規事業採択時（再評価時）の事業実施環境からの変化の状況	-	-

1 予測値が存在しない場合、事前の実測値との比較を可とする。

2 コストについて、計画と実績の比較がデータの制約により困難な場合は、実績の確認を行うだけでよい。

<事業の効果や必要性の評価に対応する事後評価項目>

政策目標		評価項目	効果の有無	補足事項（場所・データ等）
大項目	中項目			
1.活力	円滑なモビリティの確保	並行区間等の年間渋滞損失時間（人・時間）及び削減率	-	本州全体 0.12%削減（5,303 千人・時間/年 削減） 資料)定量的評価指標の算出方法（案）
		並行区間等における混雑時旅行速度が 20km/h 未満であった区間の旅行速度の改善状況	-	一般国道 9 号 16km/h (H11) 35km/h (H17) 19km/h 向上 資料)道路交通センサス
		当該路線の整備によるバス路線の利便性向上の状況	-	出雲・松江発着 高速バス便数：31 便 (H12) 36 便 (H18) 高速バス利用客数：42 万人 (H12) 51 万人 (H18) 運行時間の短縮（出雲～京都） 5 時間 15 分 4 時間 13 分 1 時間 2 分短縮 資料)一畑バス株資料
		新幹線駅へのアクセス向上の状況	-	該当無し
		第一種空港、第二種空港、第三種空港もしくは共用飛行場へのアクセス向上の状況	-	松江市～出雲空港 所要時間 26 分 (H12) 19 分 (H17) 7 分短縮 資料)道路時刻表
	物流効率化の支援	特定重要港湾もしくは国際コンテナ航路の発着港湾へのアクセス向上の状況	-	該当無し
	農林水産業を主体とする地域から大都市圏への農林水産品の流通の利便性向上の状況	-	該当無し	
都市の再生	都市再生プロジェクトの支援に関する効果	-	該当無し	

		三大都市圏の環状道路が形成 又は一部形成)されたことによる効果	-	該当無し
		市街地再開発、区画整理等の沿道まちづくりとの連携に関する効果		雲南市において高速道路計画に合わせた三刀屋木次 IC 周辺の商業集積整備を検討、実施 店舗立地面積 目標値(約59千㎡) 達成値(約53千㎡) 資料雲南市資料
国土・地域ネットワークの構築		当該路線が新たに拠点都市間を高規格幹線道路で連絡するルートを構成する		米子市～出雲市 所要時間 89分(H11) 70分(H15) 19分短縮 資料道路時刻表
		当該路線が隣接した日常活動圏中心都市間を最短時間で連絡する路線を構成する		雲南市～松江市 所要時間 42分(H11) 27分(H15) 15分短縮 資料道路時刻表
		日常活動圏の中心都市へのアクセス向上の状況	-	該当無し
個性ある地域の形成		拠点開発プロジェクト、地域連携プロジェクト、大規模イベントの支援に関する効果	-	該当無し
		IC等から主要な観光地へのアクセス向上による効果		松江地域、出雲地域において観光客数が増加 松江地域：770万人(H11) 823万人(H18)(+53万人) 出雲地域：678万人(H11) 837万人(H18)(+159万人) 資料島根県観光動態調査
		新規整備の公共公益施設と直結されたことによる効果	-	該当無し
2.暮らし	安全で安心できる暮らしの確保	三次医療施設へのアクセス向上の状況		雲南市～松江赤十字病院 42分(H11) 27分(H18) 15分短縮 雲南市～島根大学医学部附属病院 41分(H11) 30分(H18) 11分短縮 資料道路時刻表
3.安全	安全な生活環境の確保	並行区間等に死傷事故率が500件/億台キロ以上である区間が存在する場合において、交通量の減少により当該区間の安全性の向上が期待できる	-	該当無し
	災害への備え	対象区間が、都道府県地域防災計画、緊急輸送道路ネットワーク計画又は地震対策緊急整備事業計画に位置づけがある、又は地震防災緊急事業五ヶ年計画に位置づけのある路線(以下「緊急輸送道路」という)として位置づけあり		島根県の地域防災計画において、対象区間が緊急輸送道路として指定されている 資料島根県地域防災計画
		緊急輸送道路が通行止になった場合に大幅な迂回を強いられる区間の代替路線を形成		島根県の地域防災計画において、並行する一般国道9号、54号が緊急輸送道路として指定されており、通行止になった場合、対象区間が代替路線を形成 資料島根県地域防災計画
		並行する高速ネットワークの代替路線として機能	-	該当無し
		並行区間等の事前通行規制区間、特殊通行規制区間又は冬期交通障害区間の代替路線を形成	-	該当無し
4.環境	地球環境の保全	対象道路の整備により、削減される自動車からのCO2排出量		176,091,493t- CO_2 /年 176,036,103t- CO_2 /年 55,390t- CO_2 /年(0.03%減少) 本州全体 資料定量的評価指標の算出方法(案)
	生活環境の改善・保全	並行区間等における自動車からのNO2排出削減率		216,975t-NOx/年 216,870t-NOx/年 106t-NOx/年(0.05%) 減少 本州全体 資料定量的評価指標の算出方法(案)
		並行区間等における自動車からのSPM排出削減率		11,153t-SPM/年 11,147t-SPM/年 14t-SPM/年(0.05%) 減少 本州全体 資料定量的評価指標の算出方法(案)
		並行区間等で騒音レベルが夜間要請限度を超過していた区間の騒音レベルの改善の状況	-	該当無し
		その他、環境や景観上の効果		・宍道湖SAにおいて施設配置等を工夫し、宍道湖への眺望に配慮 ・宍道湖に臨み、玉造温泉街の玄関口に位置する玉造温泉橋については全体に柔らかいイメージを持たせ、地域との調和に配慮
5.その他	他のプロジェクトとの関係	他機関との連携プログラムに関する効果	-	該当なし

	その他	その他、対象地域や事業に固有の事情等、以上の項目に属さない効果		沿道の松江地域、出雲地域、雲南地域において工場立地届出件数が増加傾向 5件(H11) 13件(H17) 8件増 資料 島根県商工労働部企業立地課資料
--	-----	---------------------------------	--	--

費用便益分析の結果

路線名	事業名	延長	事業種別	現拓・B Pの別
中国横断自動車道	三刀屋木次 ～松江玉造	L=26.3km	高速自動車国道	-

計画交通量 (台/日)	車線数	事業主体
3,700～15,800	2	西日本高速道路(株)

費用

	事業費	維持修繕費	合計
基準年	平成19年度		
単純合計	891億円	495億円	1,385億円
基準年における 現在価値 (C)	1,187億円	284億円	1,471億円

便益

	走行時間 短縮便益	走行費用 短縮便益	交通事故 減少便益	合計
基準年	平成19年度			
供用年	平成14年度			
単年便益 (初年便益)	90億円	7億円	3億円	99億円
基準年における 現在価値 (B)	4,464億円	340億円	132億円	4,936億円

結果

費用便益比 (B / C)	3.4
---------------	-----

注) 費用及び便益の合計は、表示桁数の関係で計算値と一致しないことがある。

費用便益分析の条件

事業名：中国横断自動車道(三刀屋木次～松江玉造)

(2)

		項目	チェック欄
算出マニュアル	費用便益分析マニュアル (平成15年8月 国土交通省 道路局 都市・地域整備局)		
	その他		
分析の基本的事項	分析対象期間		40年間
	社会的割引率		4%
	基準年次		平成19年
交通流の推計時点	1時点のみ推計		(H33)
	複数時点での推計		
推計の状況	整備の有無それぞれで交通流を推計		有 無
	整備の有無のいずれかのみ推計		
推計に用いたOD表	道路交通センサスをベースとした自動車OD表 (三段階推定法)		(H11センサス)
	パーソントリップ調査をベースとした自動車OD表 (四段階推定法)		
	その他()		
開発交通量の考慮	無		
	有		
	有の場合のみ	考慮した開発交通量(トリップ数) 考慮した理由を記載	()台トリップ/日
交通流推計	配分交通量の推計手法	Q - V式を用いた配分	
		転換率式を用いた配分	
		Q - V式と転換率式の併用による配分	
		均衡配分(リンクパフォーマンス関数を用いた配分)	
		簡易手法	
		簡易手法の場合	小規模事業である 山間部海岸部で併行道路が少ない その他()
速度設定の考え方	各回の配分終了時の速度を交通量でウェイト付けして設定 採用理由を記載		
	最終配分の速度 採用理由を記載		
	その他(センサスデータを使用し、高規格道路の速度は、道路種別・車線当たり交通量から設定。また一般道の速度は、沿道条件・交差点密度等の道路条件を考慮し設定。)		

費用の現在価値算定表

維持修繕費の単価単価の算出(消費税相当額含まず)

箇所名: 中国横断自動車道(三刀屋木次～松江玉造)

採用単価の根拠 実績値より設定		
単価(億円)	延長(km)	単価(億円)
-	26.3	-

年次	年度	割引率	事業費(億円)		維持修繕費(億円)	
			単価	現在価値	単価	現在価値
-12年目	H 2	1.9807	0	0		0
-11年目	H 3	1.8599	0	0		0
-10年目	H 4	1.7762	0	0		0
-9年目	H 5	1.7162	0	0		0
-8年目	H 6	1.6502	5	8		0
-7年目	H 7	1.5821	18	28		0
-6年目	H 8	1.5179	47	72		0
-5年目	H 9	1.4460	59	86		0
-4年目	H 10	1.4164	120	169		0
-3年目	H 11	1.3755	142	195		0
-2年目	H 12	1.3159	238	313	0.46	1
-1年目	H 13	1.2859	137	176	4.24	5
供用開始年次	H 14	1.2428	106	132	5.11	6
1年目	H 15	1.1699	17	20	7.03	8
2年目	H 16	1.1249	2	2	6.54	7
3年目	H 17	1.0816	0	0	5.94	6
4年目	H 18	1.0400	0	0	6.44	7
5年目	H 19	1.0000	0	0	7.12	7
6年目	H 20	0.9615	0	0	7.60	7
7年目	H 21	0.9246	0	0	7.66	7
8年目	H 22	0.8890	0	0	11.19	10
9年目	H 23	0.8548	0	0	11.88	10
10年目	H 24	0.8219	0	0	11.96	10
11年目	H 25	0.7903	0	0	12.04	10
12年目	H 26	0.7599	0	0	12.12	9
13年目	H 27	0.7307	0	0	12.20	9
14年目	H 28	0.7026	0	0	12.84	9
15年目	H 29	0.6756	0	0	13.29	9
16年目	H 30	0.6496	0	0	13.37	9
17年目	H 31	0.6246	0	0	13.55	8
18年目	H 32	0.6006	0	0	13.68	8
19年目	H 33	0.5775	0	0	14.26	8
20年目	H 34	0.5553	0	0	14.66	8
21年目	H 35	0.5339	0	0	14.62	8
22年目	H 36	0.5134	0	0	14.59	7
23年目	H 37	0.4936	0	0	14.55	7
24年目	H 38	0.4746	0	0	14.51	7
25年目	H 39	0.4564	0	0	14.48	7
26年目	H 40	0.4388	0	0	14.44	6
27年目	H 41	0.4220	0	0	14.41	6
28年目	H 42	0.4057	0	0	14.37	6
29年目	H 43	0.3901	0	0	14.31	6
30年目	H 44	0.3751	0	0	14.24	5
31年目	H 45	0.3607	0	0	14.18	5
32年目	H 46	0.3468	0	0	14.12	5
33年目	H 47	0.3335	0	0	14.05	5
34年目	H 48	0.3207	0	0	13.99	4
35年目	H 49	0.3083	0	0	13.93	4
36年目	H 50	0.2965	0	0	13.87	4
37年目	H 51	0.2851	0	0	13.80	4
38年目	H 52	0.2741	0	0	13.74	4
39年目	H 53	0.2636	0	-15	13.68	4
合計			891	1,187	495	284

単純事業費計	891	495
--------	-----	-----

注1) 消費税は含まないものとする

注2) 供用開始年次は当該道路全線供用とする

注3) 評価対象期間最終年における用地残存価値(割引後の用地費)を控除している

便益の現在価値算定表

箇所名:中国横断自動車道(三刀屋木次～松江玉造)

年次	年度 (基準年) H19	割引率 (A)	走行時間短縮便益(億円)					現在価値 ×(A)	走行経費減少便益(億円)					現在価値 (A) ×	事故減少便益(億円)		合計 (億円)	
			乗用車	バス	小型貨物	普通貨物	計		乗用車	バス	小型貨物	普通貨物	計		現在価値 ×(A)	現在価値 ×(A)	便益合計 (~)	現在価値 割引率4%
供用開始年次	H 14	1.2167	53.5	8.6	12.3	15.4	90	109	2.7	0.2	2.1	1.7	7	8	2.7	3	99	121
1年目	H 15	1.1699	58.0	9.3	13.3	16.7	97	114	3.0	0.2	2.3	1.9	7	9	2.9	3	108	126
2年目	H 16	1.1249	63.5	10.2	14.6	18.3	107	120	3.2	0.3	2.5	2.1	8	9	3.2	4	118	133
3年目	H 17	1.0816	61.5	9.9	14.1	17.7	103	112	3.1	0.3	2.5	2.0	8	8	3.1	3	114	123
4年目	H 18	1.0400	61.6	9.9	14.1	17.8	103	108	3.1	0.3	2.5	2.0	8	8	3.1	3	114	119
5年目	H 19	1.0000	68.1	11.0	15.6	19.6	114	114	3.5	0.3	2.7	2.2	9	9	3.4	3	126	126
6年目	H 20	0.9615	72.7	11.7	16.7	21.0	122	117	3.7	0.3	2.9	2.4	9	9	3.6	3	135	130
7年目	H 21	0.9246	73.3	11.8	16.8	21.1	123	114	3.7	0.3	2.9	2.4	9	9	3.6	3	136	126
8年目	H 22	0.8890	107.1	17.3	24.6	30.9	180	160	5.5	0.4	4.3	3.5	14	12	5.3	5	199	177
9年目	H 23	0.8548	113.7	18.3	26.1	32.8	191	163	5.8	0.5	4.6	3.7	15	12	5.6	5	211	180
10年目	H 24	0.8219	114.5	18.5	26.2	33.0	192	158	5.8	0.5	4.6	3.7	15	12	5.7	5	212	175
11年目	H 25	0.7903	115.3	18.6	26.4	33.2	194	153	5.9	0.5	4.6	3.8	15	12	5.7	5	214	169
12年目	H 26	0.7599	116.0	18.7	26.6	33.5	195	148	5.9	0.5	4.7	3.8	15	11	5.8	4	215	164
13年目	H 27	0.7307	116.8	18.8	26.8	33.7	196	143	5.9	0.5	4.7	3.8	15	11	5.8	4	217	158
14年目	H 28	0.7026	122.9	19.8	28.2	35.4	206	145	6.3	0.5	4.9	4.0	16	11	6.1	4	228	160
15年目	H 29	0.6756	127.2	20.5	29.2	36.7	213	144	6.5	0.5	5.1	4.2	16	11	6.3	4	236	159
16年目	H 30	0.6496	128.0	20.6	29.3	36.9	215	140	6.5	0.5	5.1	4.2	16	11	6.4	4	238	154
17年目	H 31	0.6246	129.7	20.9	29.7	37.4	218	136	6.6	0.5	5.2	4.2	17	10	6.4	4	241	150
18年目	H 32	0.6006	131.0	21.1	30.0	37.8	220	132	6.7	0.5	5.2	4.3	17	10	6.5	4	243	146
19年目	H 33	0.5775	136.5	22.0	31.3	39.4	229	132	6.9	0.6	5.5	4.5	17	10	6.8	4	253	146
20年目	H 34	0.5553	140.3	22.6	32.2	40.4	236	131	7.1	0.6	5.6	4.6	18	10	7.0	4	260	145
21年目	H 35	0.5339	139.9	22.6	32.1	40.3	235	125	7.1	0.6	5.6	4.6	18	10	7.0	4	260	139
22年目	H 36	0.5134	139.6	22.5	32.0	40.2	234	120	7.1	0.6	5.6	4.6	18	9	6.9	4	259	133
23年目	H 37	0.4936	139.2	22.5	31.9	40.1	234	115	7.1	0.6	5.6	4.5	18	9	6.9	3	258	128
24年目	H 38	0.4746	138.9	22.4	31.8	40.0	233	111	7.1	0.6	5.6	4.5	18	8	6.9	3	258	122
25年目	H 39	0.4564	138.6	22.3	31.8	39.9	233	106	7.1	0.6	5.6	4.5	18	8	6.9	3	257	117
26年目	H 40	0.4388	138.2	22.3	31.7	39.8	232	102	7.0	0.6	5.5	4.5	18	8	6.9	3	257	113
27年目	H 41	0.4220	137.9	22.2	31.6	39.7	231	98	7.0	0.6	5.5	4.5	18	7	6.8	3	256	108
28年目	H 42	0.4057	137.5	22.2	31.5	39.7	231	94	7.0	0.6	5.5	4.5	18	7	6.8	3	255	104
29年目	H 43	0.3901	136.9	22.1	31.4	39.5	230	90	7.0	0.6	5.5	4.5	17	7	6.8	3	254	99
30年目	H 44	0.3751	136.3	22.0	31.3	39.3	229	86	6.9	0.6	5.5	4.5	17	7	6.8	3	253	95
31年目	H 45	0.3607	135.7	21.9	31.1	39.1	228	82	6.9	0.6	5.4	4.4	17	6	6.7	2	252	91
32年目	H 46	0.3468	135.1	21.8	31.0	39.0	227	79	6.9	0.6	5.4	4.4	17	6	6.7	2	251	87
33年目	H 47	0.3335	134.5	21.7	30.8	38.8	226	75	6.8	0.6	5.4	4.4	17	6	6.7	2	250	83
34年目	H 48	0.3207	133.9	21.6	30.7	38.6	225	72	6.8	0.5	5.4	4.4	17	5	6.7	2	249	80
35年目	H 49	0.3083	133.3	21.5	30.6	38.4	224	69	6.8	0.5	5.3	4.4	17	5	6.6	2	247	76
36年目	H 50	0.2965	132.7	21.4	30.4	38.3	223	66	6.8	0.5	5.3	4.3	17	5	6.6	2	246	73
37年目	H 51	0.2851	132.1	21.3	30.3	38.1	222	63	6.7	0.5	5.3	4.3	17	5	6.6	2	245	70
38年目	H 52	0.2741	131.5	21.2	30.2	37.9	221	61	6.7	0.5	5.3	4.3	17	5	6.5	2	244	67
39年目	H 53	0.2636	130.9	21.1	30.0	37.8	220	58	6.7	0.5	5.2	4.3	17	4	6.5	2	243	64
合計			4,694	757	1,076	1,353	7,880	4,464	239	19	188	153	600	340	233	132	8,713	4,936